

2023年9月15日表六甲で観察した植物

作：岡田弘

センボンヤリ（千本槍）キク科センボンヤリ属*花期=4～6 9～11月

名前の由来=秋の開鎖花は花径の先に一つ閉鎖花を付ける、其の姿を槍に見立て、群生している様が槍を千本立てている様子にみたてたもの。春と秋に2度花を咲かせる春は5～12cmの花茎を伸ばし先端に舌状花を付ける、羽はロゼット状で裏面にクモ毛を密生、秋は高さ15～60cmロゼット状の葉の間から1～数个花径を出し先端に筒状花の開鎖花を付ける、全草を薬草として利用されているようだが薬効は不明。

***花言葉**=希望、辛抱強さ、悲しみ、神秘 *集合場所近くの石垣の隙間に多く有った



春の花、舌状花



秋の開鎖花

メガネツグサ（眼鏡露草）ツクサ科ツクサ属*花期=6～9月

名前の由来=眼鏡は花卉の縁が白色で眼鏡をかけたようであるので、露草は開花時間帯と関りがある、開花時間は朝から昼にかけ短時間です、花の短命さがはかない朝露に例えて名付けられた。

ツグサの花言葉=尊敬、懐かしい関係、恋の心変わり、セレナーデ、涼やかな淡青色の花弁に白色で縁取られたフリルがついた花は涼風を感じさせる1年草。ツグサ属全部に言えますが、食用、薬効もあります、食用としては開花前に摘んで、お親し、酢の物、サラダ、野菜炒め。花後は天ぷら、かき揚げ、薬効としては煎じて、解毒、解熱、下痢止め作用がある。他のツグサ同様に節からよく分岐する、節が地に接すればそこから根を出して増え高さ60cmほどになる。私は初めて見て感動しました。



キツリフネソウ（黄釣舟草）ツリフネソウ科ツリフネソウ属*花期=8～10月

名前の由来=黄色の花で、花の形が帆掛け舟を吊り下げたような形をしていることや、花器の釣舟に似ていることから。**ツリフネソウ全体の花言葉**=安楽、心を休める、期待、詩的な愛、私に触れないで。山地のやや湿り気のある所を好み自生している1年草、全体に無毛で草丈は40～80cmになる、葉は粗い鋸歯があり先端が鋭く尖る。花は他のツリフネソウと違い距の先端が巻かない。花弁状に見える萼と唇形花で1個の花となっている。



ヤマジノホトトギス（山路の杜鵑草）ユリ科ホトトギス属*花期=8～10月

名前の由来=山道で良く見るので山路、ホトトギスは野鳥のホトトギスの胸の模様と花弁についている斑点状の模様が似ている所から。日本固有の植物で北海道～九州に分布している多年草、以前は川久保溪谷の上流部に自生していたが、盗掘されて絶滅してしまった、草丈は20～40cm白色の花弁に紫色の斑点がある、葉は全縁で黒いシミの様な油点があり茎を抱く、花弁は6枚、27年前芦生のトロッコ道に群生していたが、その後？***ホトトギス全体の花言葉**=永遠にあなたのもの、秘めた意志、永遠の若さ



フサフジウツギ（房藤空木）学名ブツドレア・ゴマノハグサ科フジウツギ属*花期6～10

名前の由来=紫色の小花えお沢山集めた花姿は藤を連想させ、葉が「空木（ウツギ）」に似ている所から、学名のブツドレアは英国の植物博士「Buddle」バドル氏の名前から付けられた。フジウツギとの違いフサフジウツギは葉裏に毛が密生していて真っ白で基部の節に半円形の托葉状突起がある、対生する単葉、鋸歯があり先端尖る。フジウツギの葉裏は緑色。フサフジウツギの花は枝先に円錐花序を出して多数の花が一方に偏って咲く、花序の軸には星状毛が密に生える落葉低木。原産地中国、***花言葉**=あなたを慕う、親しみのある関係、魅力、恋の予感。



ボタンズル（牡丹蔓）キンポウゲ科センニンソウ属*花期=8～9月

名前の由来=葉がボタンの葉に似ている蔓だから。日当たりの良い林縁や草原等に自生している落葉、半常緑の蔓性多年草、茎の基部は木質化している、葉柄や小葉柄が巻きつける相手に触れると長く伸びてからみつきます、葉は対生する3出複葉、鋸歯があり葉の表面の葉脈がへこんでいる。花弁に見えるのは白い萼片で4枚長楕円形で先に短い毛がはえる、原産地は日本、中国***花言葉**=休息、心地よい空気、10/28の誕生花



ヤマボウシ（山法師）ミズキ科ミズキ属*花期=5～7月

名前の由来=中心の多数の花が集まる頭状の花序を法師（僧侶）の坊主頭に、花びらに見える総苞片を白い頭巾に見立てたもので、「山に咲く法師」山法師となった。本州から九州の山地に自生する落葉高木、別名は実が美味しいのでヤマグワ等多数ある、***花言葉**=友情

